

平成 17 年度 第 2 回地域会議議事概要

3 月 13 日、青森市にあります「日本原燃サイクル情報センター」において、地域会議を開催しました。

この会議は、私共日本原燃(株)が地域の皆さまから信頼していただける企業となることを目指し、当社経営層が直接地域の皆さまのご意見やご指摘などをお伺いして、事業活動に活かしていくことを目的に開催させていただくものです。

(委員)

吉田 豊 様	弘前大学名誉教授 (元学長)
芦野 英子 様	コスモスクラブ代表
菊池 としえ 様	六ヶ所村保健協力員協議会会長
北村 真夕美 様	(株) 青森経営研究所代表取締役社長
平出 道雄 様	青森中央学院大学地域マネジメント研究所長
松尾 拓爾 様	六ヶ所村商工会長
村井 正昌 様	原子燃料サイクル施設対策協議会会長
佐々木 一仁 様	(株) ササキコーポレーション専務取締役 (ご欠席)

【会議風景写真】



● 議題

- (1) 放射線広報について
- (2) その他

● 議事

○ 当社社長の挨拶要旨

青森県六ヶ所村に立地をお願いしてから、およそ 20 年あまりたちますが、再処理工場でアクティブ試験という実際に使用済燃料をせん断し処理する段階を迎えつつあります。

そのため、アクティブ試験に関する説明会や様々な会合での説明等を青森県内で鋭意実施してきたところです。それらの説明等におきまして、再処理工場からの放出放射性物質に関するご質問ご意見が集中しました。再処理工場からの

放出放射性物質に関することにつきましては、放射線広報として繰り返しご説明してきましたのですが、現状においても大きな関心事となっております。

一方、岩手県、中でも漁業者を主体とする三陸沿岸の地域から、再処理工場のアクティブ試験等について慎重を求める声があがってきております。青森県内の六ヶ所村はもとより、三沢市や八戸市においても問題が無いということを、これまでのご説明でご理解を得てきました。さらに、150km 離れた海域では全く問題は無いのです。国も私どもの事業を許可して下さったわけですが、ご心配のむきにどの様に対処していったらよいかも大きな課題です。

まず、“ 広報 ” よりも“ 広聴 ” ということで、相手が潜在的な部分で何を思っているのかを把握する能力をどれだけ我々が持ち合わせているのか、経営の中でどこまで達成しうるのか、といったことが大きな課題です。是非とも、委員各位からのご意見やご提言をお願い致します。

- 各委員からのご意見等

- 広報全般について

- ・ 原子燃料サイクル事業を進めていくうえで必要なことは、できるだけオープンにすること。また、過激と思われる反対意見や質問に対しても、丁寧かつ冷静に答えていくことが成功の秘訣であると思う。
- ・ 会社として最大限できることは、誠意を伝えることだと思う。総論で反対されている方々に、いくら各論を説明しても効果はあまり期待できないかもしれないが、それでも説明している姿で多くの方々に事業者側の誠意が伝わると思う。
- ・ 青森県内で様々な広報活動をされていることは承知しているが、首都圏でも例えば“ 青森県六ヶ所村エネルギー基地から ” といったような情報発信ができないか、国や関係者の協力も含めて検討してみてもどうか。

- 放射線広報について

- ・ 環境モニタリングについてお知らせすることは重要です。そのような観点からすると、モニタリング・ステーションやモニタリング・ポストとは何か、何処にあるのか、さらには生活の場から関心の高い飲料水についても監視していることを表示すると、安心につながるのではないか。
- ・ 東海村の放射線医学総合研究所のような施設があって、地元の人々が放射線に関して勉強できるような機会ができるとよいのではと思う。
- ・ 放射線に関することについては、何回も説明していくことが、理解につながるのではないか。
- ・ 六ヶ所村の再処理工場周辺に居住する住民に対する影響が 0.022 ミリ・シーベルトというが、青森市では殆ど有意な影響はないこと、野辺地町ではどうなのか、といった説明をすると分かりやすいのではないか。
- ・ 周辺地域で食の問題はない。周辺地域の「食」(豊で新鮮な食材に基づく食生活) と絡ませて宣伝を行うという活動が、効果的ではないのか。

- 風評被害発生の危惧について

- ・ 風評被害の発生を脅しに使う反対の声を起こそうとしているのではないかとと思われる悪質なものが危惧される。何も知らない方々が感化される前に、正しくご理解頂くことが肝要。
- ・ 原子力発電所や火力発電所は大量の温排水を放出しているが、現在では問題となるような影響がないことについて理解されている。外国の事例も含め、実際のもので説明したらどうか。
- ・ 六ヶ所村では、牛乳については生産農家段階でサンプリングをし、抗生物質が検出されたら出荷ストップをかけたり、さらに工場では規制物質が検知されたら、タンクごと捨てるという体制ができあがっている。このように、風評被害の発生ということは、大きな枠組みの中で解消されるべきものではないか。
- ・ 放射線とか放射能がどうしたということよりも、再処理工場が立地している六ヶ所村等の農畜水産業者がイキイキと、一生懸命に生産活動を行っている姿を色々な形で見せていくことが、必要ではないか。
- ・ 六ヶ所村を含めた周辺地域の特産品について、首都圏等の消費者との交流会を通じて理解を深めてもらう試食会等の取り組みに着手したところ。今後、積極的に活動を進めていくことで、施設の安全性実証と併せて、理解獲得に繋がっていくと思う。

○国家的な活動への働きかけなどについて

- ・ 国のエネルギーセキュリティを考えると、国がもっと前面に出て国民に訴えていくべきではないかと思う。若い人達への教育という面でも、国にもっと取り組んでもらわなければいけない。
- ・ 同様に、例えば“日本のエネルギーを考える日”みたいなものをつくってもらい、東京で全国の原子力施設の状況について報告したり、地域住民との関わり等をテーマにシンポジウムを開催したり、といったようなことを検討してもらうよう、国に働きかけることも必要ではないか。

○その他の意見等

- ・ 六ヶ所村では原子燃料サイクル施設の建設推進だけではなく、風力発電といった新エネルギーの開発にも協力・努力していることについても理解してもらうことが必要ではないか。その意味でも、さらに六ヶ所村の風力発電開発が促進されるよう、電力会社の協力もお願いしたいところ。

以 上